様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 ２９ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｈ０３４２０

研究課題名（和文）公共用語の地域差・時代差に関する社会言語学的総合研究

研究課題名（英文）Sociolinguistic general studies about geographical differences of official language

研究代表者
井上　史雄（INOUE, Fumio）

東京外国語大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：４００１１３３２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　13,700,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、「公共用語」という新テーマに関して、多様な分野で大量データを集積し、公私の場面での言語使用を新たに分析した。①挑戦的萌芽研究以来共同研究を積み重ね、「公共用語」という切り口の視野を拡大して、社会言語学の体系、包括的な記述を目指した。②従来の社会言語学・方言学が私的場面での言語に関心を持ったのに対し、改まったHighの公的場面での言語使用に焦点をあてた。③公共場面での多言語化、方言使用、談話の方言差、言語景観、気づかない方言や音声変異などを取り上げた。④公共用語の包括的理論を整備し、統一的原理が貫徹していることを明らかにした。約10年の研究の報告書を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
「公共用語」とは、公共場面で使われる言語現象であり、重点を公共的なことばに移す。話しことばとしては議会の公的発言やマスコミのことば、書きことばとしては言語景観などを対象にする。ポストモダンの現代社会では多様化の動きがある。
本研究では、社会言語学でいうHighの場面を重視した分析方法を採用する。気づかない方言や、談話の方言差、公共場面での多言語使用・方言使用などの新鮮なテーマを取り上げる。21世紀に入り、従来型の方言調査の視野では、地域差がカバーできない。一方、Highの場面のことばにも地域差があり、世代差・時代差がある。多言語化が進んだ。

研究成果の概要（英文）：In this study, we collected a large amount of data in various fields on the new theme of "public terminology" and newly analyzed the use of language in public and private situations. (1) Since the challenging sprouting research, we have accumulated joint research, expanded the perspective of "public term", and aimed at a system of sociolinguistics and a comprehensive description. (2) While conventional sociolinguistics and dialectology were interested in languages in private situations, we focused on the use of languages in the revised High public situations. (3) Multilingualization in public situations, dialect use, discourse dialect differences, linguistic landscapes, unnoticed dialects and voice mutations were taken up. (4) Established a comprehensive theory of public terms and clarified that the unified principle is in place. A report has been published as a summary of the research conducted over the past 10 years.

研究分野：社会言語学

キーワード：公共的場面　多言語使用　言語景観　新方言　気づかない方言　地方議会会議録　国会会議録　公共用語

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究では、公共用語という新しい視点を導入し、研究技法として、社会言語学でいう High と Low のうちの High の場面を重視した分析方法を採用する。具体的には、気づかない方言や、談話としての方言差、および公共場面での方言使用などの新鮮なテーマを取り上げる。日本語方言学（および世界の方言学）の主な関心は、古来の日常の方言使用だった。すなわち High と Low のうち、Low の場面を主要な対象としてきた。しかし 21 世紀に入り、高年層も方言を保持することが少なくなり、従来型の方言調査の視野では、地域差がカバーできない。一方、High の公共的場面で使われることば（話しことばなら国会の討論、書きことばなら小説や学術論文や広告）には変異 variation がないかのように考えられている。しかし、High の場面のことばにも地域差があり、世代差・時代差がある。

本申請の代表者と一部の分担者による過去の科研プロジェクト「公共用語の地域差に関する社会言語学的総合研究（平成 25～27 年度）」「公共用語の地域差・時代差に関する社会言語学的総合研究（平成 28～令和元年度）」では、以下の事実を明らかにした。地方議会会議録の分析では、多様な言語現象の地域差が取り出された。人々が意識しない「気づかない方言」については、教育用語や食品名などで各地の言い方の地域差が明らかになった。インターネット調査により、政府や自治体のような堅苦しいサイトと、ブログ利用者のように若者の俗語のとびかうサイトを比較して、公共用語の文体差・場面差を確認した。さらに、方言景観・公共場面における意識的方言使用について大量データを集積し、広い歴史的・地理的視野に置いて分析した。方言みやげ以外に、方言ネーミングが施設、商店、街路、行事、商品などの方言景観データに加え、方言絵はがき、東日本大震災の被災地の方言使用データを分析し、方言の社会的位置を再検討した。さらに多言語使用、アルファベット使用にも着眼点を広げて、江戸時代以来、近代の歴史的動向もとらえて、長いタイムスパンの中に現代語を位置づけた。

２．研究の目的

新たな研究テーマ・領域としての公共用語の研究は、これまでの成果を発展させて統合する段階にある。本研究では、これまでに得られた成果に加えて新たにデータ収集を続け、本格的な分析を進める。現時点で観察される一見多様な現象にも、統一的原理が貫徹していることを明らかにし、言語変化の発生・伝播の過程の解明を目指す。

他方で本研究はこれまでの研究の継続の面も有する。これまで続いた科研が終わるが、国立国語研究所の岡崎や鶴岡における大規模経年調査の分析は長期的に連続すべきものである。本研究はそれらの長期研究の継続という側面を持つ。

公共用語とは、公共場面 public space で使われる言語を指す。ハーバーマスの「公共圏」に関わる理論を背景におく。いわゆる標準語・共通語と同様の視点であるが、外国語を考慮に入れ、かつ言語行動をも含む点、現実の使用を考察する点、および従来の方言学・社会言語学が下 Low の場面の使用に着目するのに対して、上 High の立場から照射する点で、新しい。公共的場面でのことばには変異が無いかのように考えられていたが、地域差・世代差がある。多くは長期的な史的変化の一道程として位置付けられる。また従来の研究は、意識されにくい「下からの変化」を解明することで事足れりとしていたが、本研究では下の場面の変化が文体的に上昇して上位 High 場面、公的な公共用語として普及し、確立するまでの過程をも包含する。このように、従来は部分的・一面的にしか捉えられなかった日本語の場面差・変異の実態を、High-Low という視点から把握することで、日本語の動態を総合的に明らかにする。

また、本研究では多様な分野・レベルの現象を分析対象に含む。それらは、従来、相互に関連することが気づかれていなかった、あるいはその関連性が重要視されていなかったものを含む。本研究では、こうした多様な分野・テーマの分析に対して、公共用語という共通・一貫した視点を導入する。それにより、様々なレベルでの研究成果を統合し、一見多様な現象にも統一的原理が貫徹していることを明らかにする。さらに外国語にも適用可能な視点・手法であることを海外に発信する。

３．研究の方法

言語学の各分野における公共用語の具体的テーマを研究する。一般的な分析レベル、すなわち分析単位の長さ・要素数の異なる各レベルで分析する。**音声**については、微細な分析により、子音の調音の変化が進行中と分かった。アクセントも平板化に向かって変化を進めている。**文法**についても、ら抜き、さ入れ、助詞用法、補助動詞多用など、多くの変化が進行中である。**語彙**では、標準語化とともに、外来語の増加が著しい。**敬語**は民主化・平等化に向けて着実に変化している。**談話行動**も都市化に対応した変化が進んでいる。

これらの多様な変化は、一部は**下からの変化**で、従来のように日常語、方言などでも観察される変化だが、一部は**上からの変化**として、むしろ改まった場面で変化が起き、拡大している。近代以降公的場面で発生し、普及した言語現象は多い。演説・講演、公的場面の発言、マスコミのインタビューなど、個人が公的場面に登場する機会は、増大している。書きことばの面ではイン

ターネットなどの登場により、個人が大勢に向けて発信できるようになった。
以上の分析レベルは、分析単位の長さ、要素数にも関係するが、最近明らかになったのは、分析単位・要素数と、**習得・採用の年齢と加齢変化**の有無との関係である。研究分担者の音響分析により、日本語子音の発音（VOT）が微細な（知覚域以下の）変化を重ねており、幼時に身に付いた発音様式は個人の生涯の中で変化しないことが見出された。山形県鶴岡市の共通語化調査でも、音声・音韻については同時出生集団 cohort によって大きく支配されることが明らかになった。聴覚音声学的技法により S 字カーブを描くきれいな音変化が実証されたが、次の課題として、実験音声学的技法（VOT など）により、精細な分析を目指す。
一方文法・語彙については思春期以降に大きく拡大し、変動する。壮年期以降も新語・新表現を取り入れる。敬語や談話パターンについては、岡崎敬語の繰り返し調査により、「**敬語の成人後採用**」が指摘された。つまり言語の分析レベル（単位の長さ）は、習得・採用の年齢と比例関係を示し、かつ加齢変化の可能性とも連動する。
韓国語でも音韻について進行中の変化が見られ、文法の変化があり、外来語が流入して新語が生じ、さらに日本語敬語と並行的な敬語変化が観察されている。日本語の公共用語において観察される現象が汎言語的なユニバーサルな現象なのかについて、言語類型からみて日本語にきわめて近い韓国語と対照して確認する。
日本語については戦後まもなくからの継続･繰り返し調査の結果があるので､**実時間** real time による言語変化が分析可能である。年齢という**見かけ時間** apparent time の分析も平行して行い、重層的な研究ができる。さらに「記憶時間」memory time を利用した新調査法を導入する。過去の言語使用の想起という手法で、現在の言語使用以外に、若いころの言語使用も答えてもらう。これによって個人内の言語使用の加齢変化を動態的にとらえることができる。岡崎市の敬語調査で明らかになった「敬語の成人後採用」がこの調査法によって確認できる。さらには言語変化の発生と伝播の過程が分かる。

４．研究成果
具体的な分析対象としては、以下の事実を明らかにした。具体的には、分担者による各種の実証研究を研究業績一覧によって参照されたい。
(1)　現代日本語の大きな動き
標準語・共通語の全国普及と言う大きな流れが、言語学の各分析レベルで確認され、「**雨傘モデル**」に従って変化が進むことが観察された。各地の方言（新方言）の公共場面への登場と、標準語への採用が確認された。また「気づかない方言」「気づかない変化」が音声、文法、敬語、語彙、談話パターンなど多くの面で実証された。22 世紀にかけての大きな動きとして位置付けられる。
(2)　国会議会会議録・地方議会会議録
現代の公共用語の典型としての国会議会会議録・地方議会会議録の分析により、多様な言語現象の地域差が取り出された。近代以降公的場面で発生し、普及した言語現象は多い。演説・講演、公的場面の発言、マスコミのインタビューなど、個人が公的場面に登場する機会は、増大している。書きことばの面ではインターネットなどの登場により、個人が大勢に向けて発信できるようになった。多言語使用、アルファベット使用にも広げて、江戸時代、近代の長いタイムスパンの中に現代語を位置づけた。現時点で観察される一見多様な現象にも、統一的原理が貫徹していることを明らかにした。他方で本研究はこれまでの長期研究の継続の面も有する。
(3)　江戸時代以来の方言・標準語の動き
江戸時代中期 250 年前の方言集『浜荻』は、庄内方言と江戸在勤の武士ことばを記した資料である。その戦後まもなくの調査の追跡という大規模調査によって、江戸ことばの二重性、つまり社会階層と場面による相違が析出された。約 400 語の 100 年以上の年齢差のデータに多変量解析を適用し、歴史社会言語学観点から計量語彙論的分析を施した。武家にふさわしい用語は、今も区別があり、標準語、公共用語として普及中で、近代語の連続性が確認され、その動きは現在に引き継がれている。
戦後まもなくからの鶴岡継続調査があるので、実時間 real time による言語変化が分析可能である。年齢という見かけ時間 apparent time の分析も行った。さらに記憶時間 memory time を利用した新調査法を導入した。想起法で、若いころの言語使用も答えてもらい、加齢変化もとらえることができる。言語変化の発生と伝播の過程が分かる。
(4)　「気づかない方言」「気づかない言語変化」
人々が意識しない「気づかない方言」については、教育用語や食品名などで各地の言い方の地域差が明らかになった。音声については、音響分析により、子音の調音の変化が進行中と分かった。アクセントも平板化に向かって変化を進めている。文法についても「ら抜き」「さ入れ」補助動詞多用など多くの変化が進行中である。語彙では、標準語化とともに、外来語の増加が著しい。敬語は民主化・平等化に向けて着実に変化している。談話行動も都市化に対応した変化が進んでいる。一方文法・語彙については壮年期以降も新語・新表現を取り入れる。敬語や談話パターンについては、敬語の成人後採用が指摘された。加齢変化とも連動する。　これらの多様な変化は、一部は下からの変化で、従来のように日常語、方言などでも観察される変化だが、一部は上からの変化として、改まった場面で変化が拡大している。
(5)　成果の発信・公表

得られた成果とデータは、各分担者の論文・口頭発表で公にされるとともに、紙出版の困難さから、CD やインターネットで電子ファイルとして公開されている。また国際発信を心がけ、ヨーロッパの国際会議でのワークショップ、学会誌の特集、個別論文、韓国・中国の学会誌への掲載が実現した。日本語の公共用語で観察される現象がユニバーサルな現象なのか確認する。

(6)　コロナの影響と次期の科研費

コロナ禍のために学会出張を利用した打合せ会が不可能になり、現地調査が不能になった。リモートの学会参加や打合せを利用したが、一方でデータの分析と論文の執筆に集中できた。

次期の科研費によって次の企画が実行されている。メンバーを活発な実働部隊に絞ったので、公共用語研究の更なる発展が期待される。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計59件（うち査読付論文　20件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 岸江信介	４．巻 37巻7号
２．論文標題 徳島県祖谷地方のことば―祖谷に残る古語を追って―	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本語学	６．最初と最後の頁 46-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 峪口有香子・岸江信介・桐村喬	４．巻 31巻8号
２．論文標題 Twitterデータを利用した言語地理学的研究の可能性: 「おもしろい」「おもしろくない」を事例として	５．発行年 2019年
３．雑誌名 計量国語学	６．最初と最後の頁 537-554
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 半沢康	４．巻 Jul-37
２．論文標題 福島県檜枝岐方言の現状－その独自性と変容－	５．発行年 2018年
３．雑誌名 日本語学	６．最初と最後の頁 2 - 10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 半沢康	４．巻 4
２．論文標題 東北地方におけるハーの伝播と変化	５．発行年 2018年
３．雑誌名 方言の研究	６．最初と最後の頁 159-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田三枝子	4．巻 22巻2号
2．論文標題 熊本方言の促音の音声詳細に見られる年層差・性別差	5．発行年 2018年
3．雑誌名 音声研究	6．最初と最後の頁 109-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24467/onseikenkyu.22.2_109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 松田謙次郎	4．巻 31巻5号
2．論文標題 多人数質問調査法の現在（3）　ランダムサンプリングの現在の問題点	5．発行年 2018年
3．雑誌名 計量国語学	6．最初と最後の頁 373-390
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 松田謙次郎	4．巻 31巻6号
2．論文標題 変異理論における一般化線形混合モデルの導入	5．発行年 2018年
3．雑誌名 計量国語学	6．最初と最後の頁 402-416
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 沖裕子・姜錫祐・趙華敏・西尾純二	4．巻 21巻1号
2．論文標題 依頼談話の発想と表現	5．発行年 2018年
3．雑誌名 社会言語科学	6．最初と最後の頁 80-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 西尾純二	4．巻 14巻3号
2．論文標題 社会言語・言語生活	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本語の研究	6．最初と最後の頁 83-90
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 Vol.6 Number 1
2．論文標題 語言景観与語言経済	5．発行年 2018年
3．雑誌名 中国語言戦略 China Language Strategies	6．最初と最後の頁 6 - 18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Fumio Inoue	4．巻 20
2．論文標題 Continuum of Fujian language boundary perception --- Dialect division and dialect image---	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Dialectologia: revista electronica	6．最初と最後の頁 147-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 37巻 10号
2．論文標題 平成の方言ー鶴岡の二五〇年間の言語変化ー	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本語学 9月号	6．最初と最後の頁 127-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 41-5
2．論文標題 手話展示の空間と時間	5．発行年 2017年
3．雑誌名 月刊みんぱく	6．最初と最後の頁 p.9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Fumio INOUE	4．巻 1
2．論文標題 Contradictory tendencies of real and apparent time changes --- Late adoption of politeness behavior in Okazaki Survey on Honorifics ---	5．発行年 2017年
3．雑誌名 VIII. Congress of International Society for Dialectology and Geolinguistics	6．最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Fumio INOUE, HANZAWA, Yasushi	4．巻 1
2．論文標題 Observation of Linguistic Change in Progress through Real Time Comparison of Glottogram Data	5．発行年 2017年
3．雑誌名 VIII. Congress of International Society for Dialectology and Geolinguistics	6．最初と最後の頁 31-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 25号
2．論文標題 ことばの社会的伝播と方言区画形成(日本語)	5．発行年 2017年
3．雑誌名 方言学（韓国方言学会）The Journal of Korean Dialectology	6．最初と最後の頁 201-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄 ヤンミンホ	4．巻 25号
2．論文標題 ことばの社会的伝播と方言区画形成(韓国語訳)	5．発行年 2017年
3．雑誌名 方言学（韓国方言学会）The Journal of Korean Dialectology	6．最初と最後の頁 247-291
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 270（2017夏号）
2．論文標題 現代人の話し方の合理化 ～国会会議録と地方議会会議録の敬語を中心に～	5．発行年 2017年
3．雑誌名 速記時報	6．最初と最後の頁 8-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 2017年8月号
2．論文標題 現代人の話し方の合理化 ～国会会議録と地方議会会議録の敬語～	5．発行年 2017年
3．雑誌名 「日本の速記」	6．最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Fumio INOUE	4．巻 1
2．論文標題 Age-area distribution of linguistic change in progress observed in glottograms	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Dialekt / Dialect 2.0 Langfassungen / Long papers	6．最初と最後の頁 174-194
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 19
2．論文標題 経済言語学と言語景観	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『ことばと社会』ことばと商品化	6．最初と最後の頁 26-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 20巻４期
2．論文標題 从地理　近性中国南部与日本的文化交流	5．発行年 2017年
3．雑誌名 集美大学学報　哲社版	6．最初と最後の頁 102-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 1
2．論文標題 国会・地方議会会議録に見る 敬語と方言	5．発行年 2018年
3．雑誌名 「全国議事記録議事運営事務研修会記録」	6．最初と最後の頁 16-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 1
2．論文標題 減災・防災情報を広げる手段	5．発行年 2018年
3．雑誌名 「多文化共生社会に向けての災害時コミュニケーションに関する総合的研究」	6．最初と最後の頁 69-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Fumio INOUE	4．巻 1
2．論文標題 Continuum of Fujian language boundary perception --- Dialect division and dialect image---	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Dialectologia: revista electr?nica	6．最初と最後の頁 147-180
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 半沢康	4．巻 1
2．論文標題 グロットグラム調査データの実時間比較	5．発行年 2017年
3．雑誌名 空間と時間の中の方言	6．最初と最後の頁 283-303
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 半沢康	4．巻 1
2．論文標題 要地方言の活用体系記述　福島県福島市方言	5．発行年 2018年
3．雑誌名 全国方言文法辞典資料集(4)　活用体系(3)	6．最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 竹田晃子	4．巻 通巻475号（第37巻1号）
2．論文標題 東北方言の癖―話し手の認識を表す文法形式と沈黙する東北人―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本語学	6．最初と最後の頁 14-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 田邊和子	４．巻 1
２．論文標題 日本の家庭における話題敬語の継承の分析	５．発行年 2017年
３．雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告	６．最初と最後の頁 102-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 木村泰知，関根聡，乾健太郎	４．巻 1
２．論文標題 地方議会会議録の要約に向けて	５．発行年 2018年
３．雑誌名 言語処理学会第24回年次大会(NLP2018) P5-3	６．最初と最後の頁 596-599
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 木村泰知，戸嶋咲穂，渋木英潔	４．巻 1
２．論文標題 新聞記事における政治家の発言の引用記述と議会会議録との対応関係の調査 ―フェイクニュース検出に向けて―	５．発行年 2018年
３．雑誌名 言語処理学会第24回年次大会(NLP2018) B3-2	６．最初と最後の頁 400-403
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 桧森拓真，木村泰知，坂地泰紀	４．巻 1
２．論文標題 地方議会会議録における発言文の推定	５．発行年 2018年
３．雑誌名 言語処理学会第24回年次大会(NLP2018) P1-3	６．最初と最後の頁 125-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井原 大将，内田 ゆず，高丸 圭一，木村 泰知，江崎 浩	4．巻 1
2．論文標題 全地方議会会議録の横断検索に向けたデータ収集とデータ構造の検討	5．発行年 2017年
3．雑誌名 第233回自然言語処理研究会	6．最初と最後の頁 14-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 木村泰知，内田ゆず，高丸圭一	4．巻 1
2．論文標題 都道府県議会会議録のパネルデータ作成に向けた発言者情報の付与	5．発行年 2017年
3．雑誌名 第33回ファジィシステムシンポジウム講演論文集	6．最初と最後の頁 701-706
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中琢真，坂地泰紀，小林暁雄，木村泰知，増山繁，	4．巻 1
2．論文標題 地方議会の議案収集に向けた議案一覧抽出の試み	5．発行年 2017年
3．雑誌名 電子情報通信学会技術研究報告 117(207)	6．最初と最後の頁 41-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中琢真,小林暁雄,坂地泰紀,内田ゆず,乙武北斗,高丸圭一,木村泰知,増山繁	4．巻 1
2．論文標題 都道府県議会会議録を対象とした議題・議案表現の自動抽出に向けた検討	5．発行年 2017年
3．雑誌名 人工知能学会全国大会	6．最初と最後の頁 3G 2 - 2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 木村泰知，小林暁雄，坂地泰紀，内田ゆず，高丸圭一，乙武北斗，吉田光男，荒木健治	４．巻 1
２．論文標題 議論の背景・過程・結果を関連づける地方政治コーパスの構築の試み	５．発行年 2017年
３．雑誌名 人工知能学会全国大会	６．最初と最後の頁 3G 2 - 4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Hokuto Ototake, Hiroki Sakaji, Keiichi Takamaru, Akio Kobayashi, Yuzu Uchida, Yasutomo Kimura	４．巻 1
２．論文標題 A Web-Based Visualization System for Interdisciplinary Research Using Japanese Local Political Corpus	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Advances in Network-Based Information Systems, The 20th International Conference on Network-Based Information Systems (NBiS-2017)	６．最初と最後の頁 125-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高田三枝子	４．巻 32
２．論文標題 促音閉鎖区間の有声性に関する音声詳細の地域差	５．発行年 2017年
３．雑誌名 人間文化	６．最初と最後の頁 198-184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 松田謙次郎	４．巻 1
２．論文標題 国会会議録と関西弁	５．発行年 2018年
３．雑誌名 真田信治監修『関西弁事典』	６．最初と最後の頁 357－357
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yasutomo Kimura, Keiichi Takamaru, Takuma Tanaka, Akio Kobayashi, Hiroki Sakaji, Yuzu Uchida, Hokuto Ototake and Shigeru Masuyama	4．巻 12
2．論文標題 Creating Japanese Political Corpus from Local Assembly Minutes of 47 prefectures	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Proceedings of the 12th Workshop on Asian Language Resources	6．最初と最後の頁 78-85
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Taro Nakanishi, Keiichi Takamaru	4．巻 －
2．論文標題 自治体 Web サイトにおける防災マニュアルの語彙難度について－もっとやさしい日本語 による情報支援実現のための基礎調査－	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Proceedings of International Conference of Japanese Language Education	6．最初と最後の頁 －
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 田中琢真，小林暁雄，坂地泰紀，内田ゆず，乙武北斗，高丸圭一，木村泰知	4．巻 32
2．論文標題 地方政治コーパス構築に向けた都道府県議会会議録からの発言データの抽出	5．発行年 2016年
3．雑誌名 ファジィシステムシンポジウム講演論文集	6．最初と最後の頁 251-254
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宇佐美まゆみ	4．巻 21
2．論文標題 なぜポライトなつもりがインポライトになるのか－ディスコース・ポライトネス理論の観点から日本語教育に示唆できること－	5．発行年 2017年
3．雑誌名 ヨーロッパ日本語教育	6．最初と最後の頁 73 - 81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宇佐美まゆみ	4．巻 20
2．論文標題 自然会話を素材とする共同構築型WEB教材を使った「対話」と「会話」の教育	5．発行年 2016年
3．雑誌名 ヨーロッパ日本語教育	6．最初と最後の頁 231-236
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 柳村裕	4．巻 12
2．論文標題 話者の職業による敬語使用の差異と変化―岡崎敬語調査資料の分析―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 国立国語研究所論集	6．最初と最後の頁 205-225
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 高田三枝子	4．巻 29
2．論文標題 『話し言葉コーパス』における鼻子音の持続時間	5．発行年 2016年
3．雑誌名 言語・情報・テクスト	6．最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 竹田晃子	4．巻 98
2．論文標題 新村出自筆「東西語法境界線概略」の成立再考―新村出と大槻文彦による三枚の地図をもとに―	5．発行年 2016年
3．雑誌名 アルテス　リベラレス、岩手大学人文社会科学部	6．最初と最後の頁 129-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 峪口有香子，仙波光明，岸江信介，久保博雅，坂田千春	4．巻 61
2．論文標題 鳴門市の方言	5．発行年 2017年
3．雑誌名 阿波学会紀要	6．最初と最後の頁 149-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 塩川奈々美，岸江信介，峪口有香子	4．巻 24
2．論文標題 贈答場面における配慮表現―「つまらないものですが」の使用をめぐって―	5．発行年 2016年
3．雑誌名 徳島大学総合科学部『言語文化研究』	6．最初と最後の頁 109-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Inoue, Fumio	4．巻 17
2．論文標題 A Century of Language Change in Progress --- New Dialect in Tsuruoka---	5．発行年 2016年
3．雑誌名 Dialectologia(http://www.publicacions.ub.edu/revistes/dialectologia17/)	6．最初と最後の頁 web公開
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 2
2．論文標題 計量方言学の研究動向――内外の半世紀――	5．発行年 2016年
3．雑誌名 方言の研究	6．最初と最後の頁 39-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 36-2
2．論文標題 言語変化のS字カーブ - 過去の方言の痕跡	5．発行年 2017年
3．雑誌名 日本語学36-2	6．最初と最後の頁 26-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 13
2．論文標題 福建語境界意識の連続体―方言区画と方言イメージ―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 言語政策	6．最初と最後の頁 119-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 20
2．論文標題 日本語ハワイ方言の特徴	5．発行年 2017年
3．雑誌名 東アジア日本語教育・日本文化研究20	6．最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 井上史雄	4．巻 22
2．論文標題 「ら抜きことば」20年間の経年変化	5．発行年 2017年
3．雑誌名 明海日本語	6．最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 ダニエル・ロング、今村圭介	4．巻 36
2．論文標題 パラオ国アンガウル島における日本語の使用	5．発行年 2016年
3．雑誌名 日本語研究	6．最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 ダニエル・ロング、甲賀真広	4．巻 513-7
2．論文標題 接触言語の分類に関する量的研究―起点言語の割合を通して―	5．発行年 2017年
3．雑誌名 人文学報	6．最初と最後の頁 45-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 ダニエル・ロング、斎藤敬太	4．巻 513-7
2．論文標題 隣接する無敬語・敬語地域の言語景観にみられる待遇表現の違い(近畿編)	5．発行年 2017年
3．雑誌名 人文学報	6．最初と最後の頁 33-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計70件（うち招待講演　16件／うち国際学会　30件）

1．発表者名 山下暁美
2．発表標題 全国方言資料からみる地域性
3．学会等名 徳島大学シンポジウム『全国方言資料展からみる地方創生』
4．発表年 2019年

１．発表者名 Yukako Sakoguchi, Shinsuke Kishie
２．発表標題 Distribution and diffusion of the dialect in the Seto Inland Sea
３．学会等名 Tentative Program of the Fourth International Conference on Asian Geolinguistics（Universitas Indonesia, Jakarta）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Shinsuke Kishie, Razaul Karim Faquir, Yukako Sakoguchi
２．発表標題 On the Advantage of Language Spread by Sea Route in the Seto Inland Sea Region
３．学会等名 IXth CONGRESS OF THE INTERNATIONAL SOCIETY FOR DIALECTOLOGY AND GEOLINGUISTICS (Vilnius, Lithuania)（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岸江信介
２．発表標題 「断り」における配慮表現の地域言語学的研究
３．学会等名 語言地理類型論国際研討会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岸江信介
２．発表標題 和歌山県田辺市の方言
３．学会等名 シンポジウム『日本社会の変容と伝統文化』（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yasushi Hanzawa
２．発表標題 Diffusion and Change of r-deletion in Fukushima prefecture
３．学会等名 The 16th Annual Conference of the International Association of Urban Language Studies（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 乙武 北斗，高丸 圭一，内田 ゆず，木村 泰知
２．発表標題 一般公開版「都道府県議会会議録検索システム」の概要
３．学会等名 人工知能学会全国大会（第32回）
４．発表年 2018年

１．発表者名 内田 ゆず，高丸 圭一，乙武 北斗，木村 泰知
２．発表標題 都道府県議会会議録コーパスを用いた議員の議会活動の可視化に向けて
３．学会等名 人工知能学会全国大会（第32回）
４．発表年 2018年

１．発表者名 大野眞男・竹田晃子・小島聡子
２．発表標題 岩手県沿岸被災地の小・中学校における方言理解教育の支援
３．学会等名 第2回実践方言研究会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 竹田晃子
２．発表標題 災害時の地域言語（方言）とコミュニケーション
３．学会等名 日本語教育学会2018年秋季大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 竹田晃子
２．発表標題 方言をどう生かすか―教育と継承の現在―
３．学会等名 2018年度東北文化公開講演会「今、方言とどう向き合うか―実践方言学の世界―」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazuko Tanabe
２．発表標題 Simplification of Honorifc Language Use in Japanese
３．学会等名 International Congress of Linguists 20
４．発表年 2018年

１．発表者名 Kazuko Tanabe
２．発表標題 Changes in the Use of the Japanese Honorific "IRASSHARU"
３．学会等名 The 6th JSA ASEAN conference
４．発表年 2018年

１．発表者名 松田謙次郎
２．発表標題 「方言」の飛び交う国会審議
３．学会等名 愛知大学人文社会学研究所 ワークショップ「みんなの知らない方言の世界」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 松田謙次郎
２．発表標題 岡崎敬語調査データベースの派生的活用 ―「足りない～足らない」の変異を探る
３．学会等名 国立国語研究所創立70周年記念 シンポジウム 「経年調査の新たな挑戦 ―日本語の将来を占うために」（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Fumio Inoue
２．発表標題 Common Developments of Japanese and Dutch-Flemish Dialectology Computational Dialectology in Japan
３．学会等名 SIDG 9 Lithuania
４．発表年 2018年

１．発表者名 Fumio Inoue & Yasushi Hanzawa
２．発表標題 Dialect vocabulary changes over 140 years ---Standardization and new dialect forms observed in Hamaogi glossary ---
３．学会等名 SIDG 9 Lithuania
４．発表年 2018年

１．発表者名 井上史雄
２．発表標題 東アジアの日本語景観と外行語の地域差
３．学会等名 東アジア日本語教育日本文化研究学会2018年度国際学術発表大会 大連大学
４．発表年 2018年

１．発表者名 井上史雄
２．発表標題 言語と経済 都会の中の田舎
３．学会等名 第16回国際都市言語学会年次大会（ULS）（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 小林初夫・半沢康
２．発表標題 東日本大震災被災地における方言教育の取り組み
３．学会等名 日本方言研究会第104回研究発表大会
４．発表年 2017年

１．発表者名 半沢康・本多真史
２．発表標題 方言調査を介した被災地支援－避難指示解除地域における取り組み－
３．学会等名 第1回実践方言研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 大野眞男・小島聡子・竹田晃子
２．発表標題 「おらほ弁で語っぺし」プロジェクトの報告
３．学会等名 日本方言研究会第104回研究発表会
４．発表年 2017年

１．発表者名 竹田晃子
２．発表標題 オノマトペを用言化する動詞・接尾辞の地理的分布
３．学会等名 Workshop on Mimetics I「オノマトペの類型論を目指して」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 竹田晃子
２．発表標題 オノマトペにも方言があるか？
３．学会等名 第11回NINJALフォーラム「オノマトペの魅力と不思議」（招待講演）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Koko TAKEDA
２．発表標題 Geographical distribution of verbs and suffixes verbalizing mimetics
３．学会等名 Tradition and Innovation in the Japanese language, International Symposium on Japanese Studies（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 岸江信介・峪口有香子
２．発表標題 日本における言語地理学とその応用例―大規模データの有効利用―
３．学会等名 語言地理類型論国際研討会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 岸江信介・峪口有香子
２．発表標題 日本における言語地理学とその応用―資料編―
３．学会等名 語言地理類型論国際研討会（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kishie Shinsuke、Razaul Karim Faquire、Sakoguchi Yukako、Shimizu Yukichi、Shiokawa Nanam
２．発表標題 East-West Opposition with Regard to the Negative Form of Verb in Japan
３．学会等名 Methods in Dialectology XVI（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 岸江信介、峪口有香子、桐村喬、Si Mengjie
２．発表標題 SNSデータを利用した言語地理学的研究
３．学会等名 Urban Language Seminar 15（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 田邊和子
２．発表標題 日本の家庭における話題敬語の継承の分析
３．学会等名 電子情報通信学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kazuko Tanabe
２．発表標題 Analysis of Japanese Honorific Usage Succession in the Home Using Mixed-Methods Research
３．学会等名 Methods in Dialectology XVI（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kazuko Tanabe
２．発表標題 The Regularization-change of Language use of IRASSHARU in Japanese Honorifics
３．学会等名 23rd International Conference on Historical Linguistics（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Kazuko Tanabe
２．発表標題 Transformation of the Japanese Honorific Style from Referenced Person to Listener
３．学会等名 15th International Pragmatics Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 高田三枝子
２．発表標題 熊本方言話者における促音音声詳細の世代差
３．学会等名 日本音声学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 Matsuda, Kenjiro
２．発表標題 Hansards as a dialectal resource
３．学会等名 Methods in Dialectology XVI（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Matsuda, Kenjiro
２．発表標題 On the birth and diffusion of the group languagein the National Diet
３．学会等名 Methods in Dialectology XVI（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 柳村裕
２．発表標題 敬語の習得時期とその話者属性差：岡崎敬語調査資料の分析
３．学会等名 日本言語学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 柳村裕
２．発表標題 日本語の敬語の機能の変化―愛知県岡崎市における尊敬語・謙譲語使用の減少の事例―
３．学会等名 日本語学会
４．発表年 2017年

１．発表者名 USAMI, Mayumi
２．発表標題 Discourse Politeness Theory as an Interpersonal Theory
３．学会等名 第31回　国際心理学会（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 柳村裕
２．発表標題 社会は敬語をどう獲得するか？―マクロ社会言語学的考察―
３．学会等名 東京外国語大学語学研究所定例研究会
４．発表年 2016年

１．発表者名 日高水穂・竹田晃子
２．発表標題 岩手方言の条件形式-aba形の由来をめぐって―分水嶺型分布の検証―
３．学会等名 日本語学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Shinsuke Kishie,Shuichi Matsunaga, Takashi Kirimura, Shin Abe, Kota Hattori, Yukako Sakoguchi
２．発表標題 Conducting Research on the Geographical Linguistics by Utilizing the Data Comprising Twitter Postings
３．学会等名 New Ways of Analyzing Variation Asia- Pacific Region 4 (NWAV-AP4)（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Kota Hattori, Shinsuke Kishie, Takashi Kirimura, Yukako Sakoguchi, Nanami Shiokawa
２．発表標題 How Fast Would It Be? -Observing the Distributions of Emerging Words through Twitter
３．学会等名 New Ways of Analyzing Variation Asia- Pacific Region 4 (NWAV-AP4)（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Yukako Sakoguchi,Shinsuke Kishie,Shuuichi Matsunaga
２．発表標題 Crisis Management with regard to the Nankai Trough Massive Earthquake: A Case Study on the University of Tokushima
３．学会等名 Japanese Language Education for Welfare(well-being)The 2016 Symposium on Japanese Language Education（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 松永 修一，岸江 信介，峪口 有香子
２．発表標題 大学における地域貢献とPBL型日本語教育の実践研究　―中山間地での協働を事例にして―
３．学会等名 Japanese Language Education for Welfare(well-being)The 2016 Symposium on Japanese Language Education（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 塩川 奈々美，峪口 有香子，任 福継，岸江信介
２．発表標題 大阪市域の贈答場面における言語行動 ―テキストマイニングによる分析と全国調査との比較を通じて―
３．学会等名 Urban　Language Seminar 14（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 林琳，韓春紅，岸江信介
２．発表標題 中国五県方言分布的経年変化
３．学会等名 Urban　Language Seminar 14（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Shinsuke KISHIE, Yukichi Shimizu, Yukako Sakoguchi, Nanami Shiokawa
２．発表標題 Means to count noun in Japanese
３．学会等名 アジア地理言語学第2回集会(東京外大AA研)
４．発表年 2017年

１．発表者名 岸江信介，峪口有香子
２．発表標題 日本における言語地理学とその応用―資料編―
３．学会等名 第七回嶺南中国語方言研究的理論与実践検討会
４．発表年 2016年

１．発表者名 岸江信介，峪口有香子
２．発表標題 日本における言語地理学とその応用例―大規模データの有効利用―
３．学会等名 第七回嶺南中国語方言研究的理論与実践検討会
４．発表年 2016年

１．発表者名 Daniel Long
２．発表標題 Contact Varieties in the Ryukyu Islands
３．学会等名 NWAV-AP4（New Ways of Analyzing Variation, Asia-Pacific）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Daniel Long
２．発表標題 Language, Culture and Consumption in our Asian Community
３．学会等名 One Asia Foundation lectures on “Asian Community and Language, Culture, Consumption”（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Daniel Long
２．発表標題 Semantic Changes in Loanwords Reflecting Micronesian Island Lifestyles
３．学会等名 12th International Small Islands Cultures Conference (ISIC 12)（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 Daniel Long
２．発表標題 Phonological traits of the Japanese and English spoken by Nikkei speakers in Hawaii
３．学会等名 American Acoustical Society (Special session on Cross-Linguistic Speech Production and Perception)（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 ダニエル・ロング
２．発表標題 太平洋諸言語にみられる日本語起源借用語の類似点と相違点―パラオ語、チャモロ語、カロリン語、チューク語を中心に―
３．学会等名 東アジア日本語教育・日本文化研究会2016年度国際学術大会（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 ダニエル・ロング
２．発表標題 英語表示の問題点―文法性と設置場所との関係―
３．学会等名 H28年度 国公私立大学病院医療技術関係職員研修（招待講演）
４．発表年 2016年

１．発表者名 ダニエル・ロング
２．発表標題 太平洋諸語に見られる日本語起源借用語の辞典構築
３．学会等名 第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 ダニエル・ロング
２．発表標題 太平洋諸言語における日本語起源借用語の意味論的特徴―カロリン語、チャモロ語、パラオ語、チューク語を例に―
３．学会等名 日本語学会
４．発表年 2016年

１．発表者名 磯野英治、ダニエル・ロング
２．発表標題 専門用語と異なる「専門的意味の日常用語」―介護福祉士や看護師を目指す外国人学習者の観点から考える
３．学会等名 2016年日本語教育国際研究大会（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 ディスコース・ポライトネス理論と談話の対照研究－異文化間ミスコミュニケーションの未然防止と日本語教育に示唆できること－
３．学会等名 第8回　中日対照言語学シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 NCRB開発の趣旨と活用方法、今後の課題
３．学会等名 北京外国語大学　特別講義
４．発表年 2016年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 NCRB開発の趣旨と活用方法、今後の課題
３．学会等名 仁川大学　特別講義
４．発表年 2016年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 自然会話コーパスの構築と第二言語教育
３．学会等名 KAFLE（韓国外国語教育学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 インドネシア人日本語観光ガイドのコミュニケーション行動の分析－ポライトネスとオモテナシの観点から－
３．学会等名 ICJLE（日本語教育国際研究大会）予稿集（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 NCRB開発の趣旨と活用方法－自然会話教材作成支援機能を中心として－
３．学会等名 ICJLE（日本語教育国際研究大会）予稿集（国際学会）
４．発表年 2016年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 日本語教育学という視点からの自然会話の研究
３．学会等名 早稲田大学日本語教育研究科小林ミナ研究室主催 ゲストセッション
４．発表年 2017年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 「BTSJ自然会話コーパス」とはどのようなもので、それを使って何ができるのか
３．学会等名 国立国語研究所　日本語教育研究領域主催　日本語教育セミナー
４．発表年 2017年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 BTSJ日本語会話コーパスと共同構築型自然会話リソースバンク（NCRB）の活用法
３．学会等名 国立国語研究所　日本語教育研究領域　合同研究発表会
４．発表年 2017年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 ディスコース・ポライトネス理論の展開と第二言語習得論
３．学会等名 第2言語習得研究会・第96回研究会
４．発表年 2017年

１．発表者名 宇佐美まゆみ
２．発表標題 BTSJ日本語会話コーパスと共同構築型自然会話リソースバンク（NCRB）の開発の趣旨と今後の展開
３．学会等名 国立国語研究所　日本語教育研究領域主催、コーパス開発センター共催
４．発表年 2017年

〔図書〕　計19件

１．著者名 山下暁美「第２章日記の言語使用―敬語・表記・語彙の生涯変化ー」	４．発行年 2018年
２．出版社 大学教育出版	５．総ページ数 pp.43-pp.89(全287頁)
３．書名 青木秀男・近藤敏夫編著『金沢象嵌職人の生活世界ー都市旧中間層にみる〈民衆的近代〉』	

１．著者名 岸江信介「『断り』という言語行動にみられる特徴―全国通信調査データから―」	４．発行年 2018年
２．出版社 ひつじ書房	５．総ページ数 432
３．書名 小林隆編『コミュニケーションの方言学』	

１．著者名 岸江信介 ／塩川奈々美／清水勇吉／林琳　編	４．発行年 2019年
２．出版社 徳島印刷（徳島大学日本語学研究室）	５．総ページ数 173
３．書名 中国地方言語地図	

1．著者名 竹田晃子「オノマトペを用言化する動詞と接尾辞の地理的分布」	4．発行年 2018年
2．出版社 ひつじ書房	5．総ページ数 91-177（全256）
3．書名 小林隆編『感性の方言学』	

1．著者名 大野眞男・竹田晃子・小島聡子「方言語彙の継承と教育」	4．発行年 2018年
2．出版社 朝倉書店	5．総ページ数 162-176（全198）
3．書名 飛田良文・佐藤武義編『シリーズ日本語の語彙：第8巻：方言の語彙：日本語を彩る地域語の世界』	

1．著者名 半沢康「現代方言語彙の動態」	4．発行年 2018年
2．出版社 朝倉書店	5．総ページ数 132-147（全198）
3．書名 飛田良文・佐藤武義編『シリーズ日本語の語彙：第8巻：方言の語彙：日本語を彩る地域語の世界』	

1．著者名 井上史雄「共通語化のスピード」	4．発行年 2018年
2．出版社 ひつじ書房	5．総ページ数 pp.127-147
3．書名 横山詔一・杉戸清樹他編　『社会言語科学の源流を追う』	

1．著者名 井上史雄「減災・防災情報を広げる手段]	4．発行年 2018年
2．出版社 科研費報告書	5．総ページ数 69-71
3．書名 「多文化共生社会に向けての災害時コミュニケーションに関する総合的研究」	

1．著者名 土屋鴎涯筆　編纂・解説　井上史雄 見野久幸 菅原義勝	4．発行年 2018年
2．出版社 荘内日報社	5．総ページ数 47
3．書名 『楽しい庄内方言まんが ― 鳥羽画 磯釣之部　五―』	

1．著者名 窪薗晴夫・浜野祥子・小野正弘・竹田晃子・秋田喜美・岩﨑典子・今井むつみ・坂本真樹	4．発行年 2017年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 176
3．書名 オノマトペの謎―ピカチュウからモフモフまで―	

1．著者名 岩手大学宮澤賢治センター・大野眞男・石井正己・岡村民夫・山本昭彦・宮澤明裕・大須賀匠・竹田晃子・小島聡子・田中成行・山本昭彦・木村直弘・アスィェサベルモガッダム・清瀬六朗・高橋在也）	4．発行年 2017年
2．出版社 東海大学出版部	5．総ページ数 230
3．書名 賢治学4号	

1．著者名 井上史雄・尾崎喜光・鑓水兼貴・柳村裕・蔵屋伸子・辻加代子・彦坂佳宣・竹田晃子・西尾純二・松田謙次郎・阿部貴人・金順任・影国躍	4．発行年 2017年
2．出版社 大修館書店	5．総ページ数 298
3．書名 敬語は変わる―大規模調査からわかる百年の動き―	

1．著者名 有田節子・江口正・前田直子・鈴木泰・矢島正浩・青木博史・日高水穂・三井はるみ・竹田晃子	4．発行年 2017年
2．出版社 くろしお出版	5．総ページ数 256
3．書名 日本語条件文の諸相―地理的変異と歴史的変遷―	

1．著者名 真田信治監修編集委員：岸江信介、高木千恵、都染直也、鳥谷善史、中井精一、西尾純二、松丸真大ほか	4．発行年 2018年
2．出版社 ひつじ書房	5．総ページ数 504
3．書名 関西弁事典	

1．著者名 岸江信介	4．発行年 2017年
2．出版社 朝倉書店	5．総ページ数 360
3．書名 空間と時間のなかの方言	

１．著者名 岸江信介	４．発行年 2016年
２．出版社 朝倉書店	５．総ページ数 320
３．書名 新日本言語地図	

１．著者名 岸江信介，清水勇吉，峪口有香子，塩川奈々美（編）	４．発行年 2017年
２．出版社 徳島大学日本語学研究室	５．総ページ数 165
３．書名 近畿言語地図	

１．著者名 中井幸比古，岸江信介，峪口有香子，島田治	４．発行年 2017年
２．出版社 徳島大学日本語学研究室	５．総ページ数 163
３．書名 小豆島諸方言アクセント資料	

１．著者名 井上史雄	４．発行年 2017年
２．出版社 NHK出版新書508	５．総ページ数 239
３．書名 『新・敬語論―なぜ「乱れる」のか―』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	Ｄａｎｉｅｌ　Ｌｏｎｇ (Long Daniel) (00247884)	首都大学東京・人文科学研究科・教授 (22604)	
研究分担者	阿部　新 (Abe Shin) (00526270)	東京外国語大学・大学院国際日本学研究院・准教授 (12603)	
研究分担者	山下　暁美 (Yamashita Akemi) (10245029)	特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・研究部・研究員 (95401)	
研究分担者	半沢　康 (Hanzawa Yasushi) (10254822)	福島大学・人間発達文化学類・教授 (11601)	
研究分担者	松田　謙次郎 (Matsuda Kenjiro) (40263636)	神戸松蔭女子学院大学・文学部・教授 (34513)	
研究分担者	木村　泰知 (Kimura Yasutomo) (50400073)	小樽商科大学・商学部・教授 (10104)	
研究分担者	柳村　裕 (Yanagimura Yuu) (50748275)	東京福祉大学・留学生教育センター・特任講師 (32304)	
研究分担者	田辺　和子 (Tanabe Kazuko) (60188357)	日本女子大学・文学部・教授 (32670)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	田中　宣広 (Tanaka Nobuhiro) (60289725)	岩手県立大学宮古短期大学部・その他部局等・教授 (41205)	
研究分担者	西尾　純二 (Nishio Junji) (60314340)	大阪府立大学・人間社会システム科学研究科・教授 (24403)	
研究分担者	高丸　圭一 (Takamaru Keiichi) (60383121)	宇都宮共和大学・シティライフ学部・教授 (32207)	
研究分担者	竹田　晃子 (Takeda Koko) (60423993)	立命館大学・衣笠総合研究機構・研究員 (34315)	
研究分担者	宇佐美　まゆみ (Usami Mayumi) (90255894)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・日本語教育研究領域・教授 (62618)	
研究分担者	岸江　信介 (Kishie Shinsuke) (90271460)	奈良大学・文学部・教授 (34603)	
研究分担者	久能　三枝子（高田三枝子） (Kuno Mieko) (90468398)	愛知学院大学・文学部・准教授 (33902)	
研究分担者	鑓水　兼貴 (Yarimizu Kanetaka) (20415615)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究情報発信センター・プロジェクト非常勤研究員 (62618)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関